



学校だより

目指す児童像

元気な子 (心と体すくすく)

進んで学ぶ子 (学びわくわく)

豊かにかかわる子 (人とにこにこ)

令和7年10月1日

第538号

児童数 585名

秋の夜長

校長 岩澤 奈々子



9月下旬までは引き続きの猛暑が続き、暑さによる屋外活動の制限を行わざるを得ない状況もありましたが、このところ空を見上げるとようやく秋の気配が見え始めホッとしています。

2学期が始まって1か月が経ちました。緩やかに新学期のスタートを切るということで、本校では新学期当初の1週間をスタートアップ週間として設定し、心と体を学校生活モードに徐々に切り替える時間を設定しています。教室を訪問し

子供たちの様子を見ると、落ち着いて学習に臨む姿が伺えます。秋は、体を動かすにも学習をするにもじっくりと集中して物事が進められる絶好の季節です。一年の折り返しとなるこれからの時間を一層充実させて過ごしていけるようにしたいと思います。

私たち教職員も「自分の考えを持ち、表現できる児童」「相手の考えを受容できる児童」の育成を目指して、『児童がお互いに認め合い、高め合う指導法の工夫』を研究主題として、年間を通じて取り組んでいるところです。外部からの指導者を招聘して学級活動と国語科の研究授業を行いながら研修を深めています。これ以外にも、公開授業や初任者に対する示範授業等、教職員それぞれが日々の授業をじっくりと組み立て、その授業を教職員同士で互いに参観し合い、授業に対する意見を交わして切磋琢磨し合いながら指導力の向上を図っています。「学ぶことが楽しい。」「もっと学びたい。」と思える授業を子供たちに提供し、様々な力をつけさせることが私たち教師にとって最も大切な役目です。本校の児童は、学校評価の結果から「自分の考えを発表する。」ことに課題があることが明らかになっています。その課題を解決するためにもこの研修が教職員だけのものではなく、子供たちへ確かな力として還元できるよう、まずは「子供たち一人一人が自分の考えを持つこと」に焦点を当てながら取組を進めてまいります。

秋の夜長、ご家庭でもお子さんとの会話が弾むことと思います。まずはお子さん本人の考えや話をじっくり聞いていただき、ご家族の会話がさらに深まるとことを願っております。引き続き、本校教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<生活委員会のあいさつの声がカラスにも!?>

生活委員会の児童が朝のあいさつ運動を行ってくれています。さわやかで元気いっぱいの子供たちのあいさつが、並木小だけでなく地域全体に潤いを与えています。

そんなある日、登校が一段落し正門前で草花の手入れをしていると、頭上から「オハヨウ」の声が聞こえるではないですか！見上げると一羽のカラス。生活委員のあいさつが、並木小や地域のみならず、カラスにも…!?私以外はまだ誰もその事実を確認していないので、空耳だと言われてしまえばそれまでですが、私の耳には間違いなく聞こえました。いずれにしろ、あいさつの輪が広がることは素晴らしいことです。引き続き、生活委員の頑張りに期待しています。